

# 北社会ニュース 16号

2004-10-20

発行・世話人会（文責・鈴木壮夫）

## 北陵会との情報交換

10月6日（水）仙台で一番牛舌がうまいという都留野（221-0806）にて、仙台北陵会の世話人5名と情報交換の機会を持つことができました。当方の申し出に即応いただきました。参加者は前野文男（18）安藤裕（18）菊田健三（22）藤川智雄（23）加藤幹夫（26）の諸兄で、私は全員と初対面でしたが数分間で打ち解けました。同窓の一番良い点です。約2時間、ステーキのような厚さの牛舌と酒で会話は広瀬川のように時には速く、時にはゆったりと流れました。世話人の苦勞（？）と会への思いは共通しているので北社会の皆さんに報告すべきこと思い出せません。

「情報交換」—お互いの開催要領・講師の紹介等々を始めようと決めました。北陵会に連絡・提案したいことございましたら世話人会までご一報願います。

最近の北陵会での講演を参考のため下記します。（回数は再開後の数字です）

<第6回>2003-10-18 「日本経済を立て直そう」

高11回 笹氣光祚氏（宮城エンジェルズ・フォーラム代表理事）

<第7回>2004-4-8 「ブロードバンド革命と日本経済」

高25回 田部康喜氏（ソフトバンク広報室長）

<第8回>2004-7-31 「私の原点と経営戦略」

高21回 齋藤博明氏（TAC代表取締役社長）

<第9回>2004-9-1 「日本百名山へのチャレンジ登山と山岳写真の取り組み」

高6回 鈴木勝彦氏（日本山岳会）

<第10回>2004-11-8 「地域活性化とベンチャーキャピタル」

高19回 熊谷巧氏（東北イノベーションキャピタル株式会社代表取締役）

（閑話）菊田さんに誘われ昔のミスー女高がママのジャズバーに寄りました。以前に来たことある空間だとなんとなく感じていました。ママがあらわれ「兄は応援団長で善積という名前です」にはびっくりでした。高11回で同期、仙台は狭いのかとも・・・。

## 宮城球場そして八木山球場

翌日10月7日、仙台は摂氏10度以下に冷えこんだがさわやかな秋晴れ。ホテルを出て早朝散歩。「日本の道百選」の一つ定禅寺通りの櫻並木を歩く。鬱蒼として、爽快。河北新報の一面トップは「宮城球場改修プラン」—プロ野球公開ヒアリング・両社、グラウンド拡張—であった。久しぶりに宮城球場を見たくなり行ってみました。ポプラも大きくなり、ミヤギノハギが咲いていた。ゆっくり球場の外側を一周した。

メディアが盛んに「老朽化」と報道しており、そうだろうなと思う一方、実家がボロと他人に言われている不快感もあった。残念ながら内外野のトイレは昔のまま(?)だった。当時と変わっていないと痛感し、「当時-昭和31年・夏」の思い出がこみあげてきた。高12回生以降は経験していない「甲子園」を。磐城高に3-1で勝ち、甲子園出場を決めたのは8月3日の蒸し暑い午後と記録されている。宮城球場の応援席で先輩達に混じり声を張り上げた記憶はあるが、勝って当然という余裕もなぜか持っていたように思う。私はその日の夜行列車で上野経由軽井沢に向かった。上小が母体のボーイスカウト17団に所属しており、浅間山麓で開催された日本ジャンボリーに参加した。準備のため、一日早く現地入りした二高の先輩に決勝戦の様子を事細かに聞かれ、野営地の草を刈りながらアナウンサーのように話した。大きなジャンボリーだった。当時の首相・鳩山一郎さんが車椅子で会場にお越しいただき励まされた。残った米を上野駅周辺の旅館に売り、パンを買って食べた。学校の講堂に集まりテレビ観戦しながら応援した。慶応高校との対戦中、雷雨激しく中断、僅か三十数人の我が応援団が無人の観客席で雨にうたれながら歌い、旗を振っているのが映し出された。講堂には2-300人はいたと思う。肩を組み合い歌った。幸せな、青春の一時期だった。八木山球場もベブルースが昭和9年、来日初のホームランを放った球場であること今回初めて知った。小学生当時、遠足だったのだろうか、吊橋をわたり八木山球場で「竹バット」野球をしたこともよみがえってきた。八木山本町にある行きつけの寿司屋「分け 福寿司」でそんな話を親方としながら、松島湾のハゼをにぎってもらった。こりこりと美味かった。ほぼ半世紀も前の思い出が今も人生や暮らしの箇所箇所で活きている、本当に有り難いと感謝しています。

## 北社会・来月開催日及び講師紹介

11月17日(水) 18:00-20:15 会場:エドモンドホテル

講師 高橋由貴彦氏 (高1回)

「ペリー提督の専属写真師ブラウジュニアとその周辺」

鎖国時代の日本の情報を詳細に入手、戦略を持って日本と交渉したペリー提督及びブラウジュニアの写真で日本の風景・人々の生活等が初めて世界に流布。

## 渡辺宏氏 慰霊登頂成功

6月例会「旧制二中蔵王遭難」をお話いただいた渡辺宏氏は9月1日、五ヵ月振りに退院自宅療養を続けておられました。千葉英之氏(高4回)初め在仙の同窓会・山岳部OBのサポートにより10月16日午後蔵王連峰の主峰熊野岳(1841M)の登頂に成功。自力で歩き通す元気さで、登頂の際感涙にむせぶ挨拶をされ、同行者ももらい泣きしたそうです。合掌後、校歌を斉唱下山したそうです。素晴らしいニュースですね。